

知って備える防災メモ

第11回

冬の防災対策

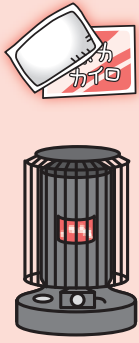
冬に発生する災害は夏とは環境が異なるため、特有の防災対策が必要です。冬の防災対策について今一度考え、適切な対策をおきまじょう。

●非常持ち出し品、非常備蓄品について

災害が発生し避難所で生活するときや、暖が取れない状況で自宅待機しなければならぬときは、体を温め、体温を維持することが重要です。非常持ち出し品、非常備蓄品に防寒具などを追加して用意し、災害に備えまじょう。

冬季に用意しておくもの

- 使い切りカイロ
- 毛布
- ジャンパーや帽子、手袋、厚手の靴下などの防寒具
- ポータブルストーブと燃料



●避難経路について

冬は積雪によって想定していた避難経路がふさがれたり、避難の妨げとなる恐れがあります。また避難する際の危険箇所が増え、特に高齢の方は雪で滑って転倒する危険性が高まります。

安全かつ迅速に避難できるように、地域の方で積極的に避難経路の除雪や、冬季の避難経路の確認をしましょう。また、平常時から滑り止めの付いた靴を履き、転倒を防ぐなどの対策をおきまじょう。



問い合わせ

総務グループ

(☎) 05-11130

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

せんたくサークル

『せんたくサークル』は、婦人会活動の一環として平成5年に結成し、平成12年に婦人会から独立し、サークルとして活動を開始しました。

現在8人のメンバーで第2・4火曜日の9時から12時まで、婦人センターで活動しています。毎回各自が持参した洗濯物を、トントンと軽妙な音を立てながらブラシで洗い上げていきます。「スーツやウールコートなど、ドライクリーニングしかできないと思われがちな洗濯物も、きれいに洗いがりますよ」と自信を見せるのは、代表の山根満枝さん。長年さまざまな繊維を見てきているので、服の素材を見ただけで適切な洗い方から仕上げの肌合いまで想像がつく



▲おしゃべりを楽しみながら洗濯をする皆さん

洗濯機とは全く違う、きれいな洗い上がり

そうです。

2年前からサークルに参加している高橋和子さんは「洗濯をするサークルなど聞いたことがなく、最初は参加を渋っていましたが、一度見学に来てみると洗濯機での洗濯とは全く違うきれいな洗い上がり」に感動し、以来ずっと参加しています」と話してくれました。

メンバーには、料理やフラダンスなど、洗濯以外のことに「見識ある方が多く、ブラシで洗濯物を叩く合間にはさまざまな話に花が咲きます。

高橋さんは、自身の経験から「見学して実際に体験すると、楽しさがわかりますよ」と言います。見学を希望する方は山根さん(☎) 2746)まで。

チーム一丸となり 訓練の成果を披露

「全国47都道府県の代表が集まる大会で緊張しましたが、競技ではチームが一丸となり、普段の訓練の成果を出すことができ、最高の気持ちです」と笑顔で話す本山梨沙さん。

競技前、チームの集中力を高めたのは、ある合言葉でした。

「競技では、5人1組で軽可搬ポンプからホースをつなぎ、的に向かって放水するまでの時間や動作の機敏さ、正確さを競いました。私は、チームの先頭で放水を始めると号令を出したり、ホースの長さを調節したりする1番員と呼ばれる役割を務めました。競技前には、分団長の山本富美子さんを中心に、『自分を信じて、みんなを信じて、できる、Do My Best』の合言葉を掛け合って全員が集中し、今回の受賞につながったと思います」と、本山さんは振り返ります。

市民が安心して暮らすために 役に立てればうれしい

本山さんが消防団に入団するきっかけは、地域のため活動する両親の姿でした。



▲訓練に取り組む女性分団の皆さん

「両親が消防団員として活動している姿を幼いころから見てきて、自分もいつか消防団に入り、地域に貢献できる活動がしたいと思っています。女性分団では、少しでも防火・防災に関心を持ってもらえるように活動しています。幼稚園の避難訓練で、子どもたちに火の用心を呼び掛ける紙芝居をしたり、救急救命講習のサポートをしたりするほか、火災があったときにはすぐに現場に駆け付け、消防署員の後方支援に当たったりしています。市民の皆さんが安心して暮らすため、何かひとつでもお役に立てればうれしいですし、これから多くの女性が消防団活動に参加してくれることを期待しています」と話す本山さん。

冬を迎え、今日も消防団の仲間と、火の用心を呼び掛けます。



KIRARI

もと やま り さ
本山梨沙さん(柏木町)

10月17日(木)、神奈川県横浜市で開催された『第21回全国女性消防操法大会』に、登別市消防団女性分団が北海道代表として初出場し優良賞を受賞するとともに、団員の本山梨沙さんが優秀選手賞に輝きました。

消防団員は、会社員や看護師などの仕事の傍ら、消防署と連携しながら、火災の消火や予防啓発をはじめ、大規模災害発生時には、救助、警戒巡視、避難誘導といったさまざまな現場で活躍し、市民の安全・安心を守る重要な役割を担っています。

本山さんに、消防団活動のきっかけや火災予防、防災への思いを聞きました。

多くの女性に消防団 活動に参加してほしい

昭和52年、小樽市生まれ。36歳。

平成10年、結婚を機に登別市に転居。平成15年、登別市消防団に入団し、仕事の傍ら、女性分団の一員として、消防訓練や火災予防啓発活動など、女性ならではのきめ細かな視点を生かした活動を精力的に行う。